

学校だより

おさなさとこの風

発行者：岩倉市立曾野小学校 校長 松岡由里子 平成21年7月17日 No. 1

1学期をふりかえって

平成21年度の曾野小学校は、全校児童698名、教職員45名でスタートしました。それから3ヶ月余りが経過し、1学期が間もなく終わろうとしています。今学期を振り返ってみますと、4月6日の入学式から今日まで様々な活動がありました。学校行事、PTA行事、また、各学年の諸活動に至るまで様々な場面でご支援ご協力をいただき、職員一同心より感謝しております。



今学期は、新型インフルエンザの関係で、何かとご心配をおかけしました。特に、修学旅行を控えていた6年生及び保護者の皆様には最終的判断がぎりぎりになり、ご迷惑をかけたと思っております。ただ、当日の京都・奈良はどの見学地も大変すいており、子どもたちはゆったりとまわることができました。いろいろな意味で忘れられない旅行になったことでしょう。

さて、これから長い夏休みに入ります。暑さが厳しい中ですが、子どもたちが家庭や地域で、ふだんできないことに挑戦し、有意義な日々を送ってくれることを期待しています。

とっても迫力がありました

～春の大型紙芝居～

本校には「おはなし会ラビット」という保護者のサークルがあります。このサークルは、各学級を対象にした朝の読み聞かせだけでなく、毎週木曜日にはおとぎの森で長放課を利用して読み聞かせを行っています。また、年に2回、大型紙芝居の上演もしています。



今年度1回目は、6月12日(金)の長放課を利用して、「わらわらない おひめさ

ま」という紙芝居を実施しました。紙芝居では、使用する道具や効果音に工夫を凝らし、観客は大いに楽しむことができました。秋はどんな大型紙芝居が上演されるのか今からとても楽しみです。

他国の文化にふれて ～国際交流活動～

アフリカ大陸・ブルンジ共和国出身のエステラ・マブラさんが今学期2度、本校を訪問され、1・2年生との交流を深めました。子どもたちは映像で紹介されるブルンジに大変興味をもったようで、たくさんの質問を浴びせていました。エステラさんはその一つ一つに笑顔で丁寧に答えてくださいました。短時間の交流でしたが、新しい国を知った子どもたちは満足そうな表情を浮かべていました。



まっすぐ植えるのはむずかしかったです

～田植え(5年生)～

梅雨も間近の6月8日(月)、澄み切った青空の下、5年生は田植えを行いました。指導してくださったのは学区に在住の加藤さんと服部さん。お二人にはこの数年来、本校の子どもたちはお世話になっています。はじめに説明を聞き、模範を見せてもらいましたが初体験の子も多く、なかなかうまくいきません。それでも泥の中に手足を入れ、みんないい顔で作業をしていました。子どもたちは大変貴重な体験をしたと思います。きっとご飯を口にするとき、これまでとは違った思いが頭をよぎるのではないのでしょうか。

楽しく学び合いができました

～授業参観～

今学期は4月と6月の2回、授業参観がありました。本校は現在、新しい学習指導要領を見据え、子どもたちに「読む・書く・聞く・話す」力をつけようと授業方法を工夫しています。授業の形態や進め方が従来と異なることを感じられた保護者の方も多いのではないのでしょうか。自分の考えを他に伝えることは簡単なことではありません。わかっているつもりでも、いざ説明するとなると困惑してしまうことがあります。理解を深めるためにも伝え合うことは有効な手段だと考えます。また、お互いに考えを述べ合うことにより、さらに進んだ考えを生み出すことも期待できます。学び合いの輪が広がることにより、教室が活気を帯びてきたと感じています。

学校だより「おさなさとこの風」の名前は、学校の東を流れている五条川が昔「幼川(おさながわ)」と呼ばれていたところから付けました。今年度も学期に1回、発行していきたいと考えています。

